

令和5年2023年度

自己点検および学校関係者  
評価報告書

宇都宮アートアンドスポーツ専門学校

## 学校の現状

### I.学校の教育目標

#### 1.専門学校としての使命と目的

学校教育法第 124 条、及び第 125 条の規定に基づき、社会人として必要な教養と専門知識を有する有能な人材を育成し、文化教養及び商業経済の発展に貢献できる人材の育成を使命・目的とする。

#### 2.教育目標

使命、目的、教育方針のもと、教育目標を下記のように定める。

- ・ 専門技術や技能の習得
- ・ 豊かな人間性と個性の伸張
- ・ 誠実で心豊かな人間性の育成
- ・ 広い視野と優れた創造性を育む
- ・ たゆまぬ努力とどんよくな研究心・向上心の育成

これらを育むことにより自信をつけさせ「社会での生きる力」を植えつける。

### II.重点的に取り組むことが必要な目標（教育重点項目）

- 1.学生の「やる気」向上の実現
- 2.ドロップアウト・ゼロの実現

重点項目	評価項目	評価※
1-1	学生の「やる気」を向上させるための研修は行われているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

#### ① 課題

本校では数年前より、授業展開の状況により学生間同士で学び合うアクティブ学習を取り入れている。教員からの一方向な指導方法はもとより学生個々の個性を伸ばすために様々な情報を学生同士で話し合い方向性を見出す力を付けさせ、「やる気」を向上させていく。課題としては教員の授業指導方法の格差および学生との関わりの格差が生じ教員の「やる気」向上も課題である。

#### ② 今後の対応または改善

教員の授業指導方法の格差については、各教員の経験スキルにより違いがあり、スキルを高めるために内部、外部研修を行い格差を埋めていく必要がある。また、学生との関わりの格差については、教員としての仕事の役割を再確認させ学生とのコミュニケーションを取ることを大前提にして毎日学生に声掛けするなど学校全体として取り組んでいく。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・毎年12月に全教員を対象とした研修が行われている。  
また、各先生が個別に必要な知識取得のために研修を受講しており、適切に行われている。
- ・コロナという希有な中で高校時代を過ごした学生など、変化の激しい時代に生きる、多様な価値観を持つ学生の「やる気」を出させる方法の模索は大変なことと思います。更なる学校側の対応に期待します。

重点項目	評価項目	評価※
2-1	ドロップアウト対策は計画的に行われているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

① 課題

- ・ドロップアウトしていく学生たちの原因は様々である。学力不足、人間関係のトラブル、学習への意欲希薄、病気、進路変更、経済困窮など。本校では学生たちの学習状況、学校生活状況の変化をいち早く察知するために担任教員と学生一人ひとりと個人面談を実施している。相談を受け学生にアドバイスをしている。担任教員がアドバイスに苦慮する場合、上長の教員にも相談してドロップアウトを防いでいる。経済面で困窮している場合、国の支援制度就学支援などを積極的に勧めているが、支援対象外の家庭には万全ではない。精神疾患を持った学生に対しては面談自体が難しい事もあり課題に残る。

② 今後の対応または改善

- ・国の教育支援や日本学生支援機構の案内を積極的に勧める。また学生を通して各家庭の事情の把握にも努めていく。必要に応じて、保護者との三者面談を実施していく。
- ・精神的な問題を抱える学生には、学校での対応及び公共機関の専門家と共に心のケアの充実を図っていく。
- ・技能力には学生個々に特徴がある。個々の特性を見出し、いかにそれを高めるかを主体にし、やる気を維持させていく。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・保護者を含めた三者面談では辞めたい理由別に対応を協議し実行している。日々の生徒とのコミュニケーションの中で、生徒が発するシグナルを見落とさないようにしていくことが大切である。
- ・途中脱落しそうな学生に対し、学校側の対応としては現状努力していることがうかがわれます。ただ、今後の少子化進む中では、少しでも良くなるよう更なる対応に期待します。

### Ⅲ.評価項目の達成及び取組み状況

#### 1.教育理念・目標

項目	評価項目	評価※
1-1	教育理念・目標・育成人材像は定められているか	4
1-2	学校における職業教育は何か	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	学校の教育理念・目標・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	3
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

##### ① 課題

- ・ 1-4 教育理念等、入学後のガイダンスで学生対象に実施される。  
このガイダンスは「学生の手引き」を用いて詳細に実施される。  
入学生に対しては十分な周知と捉えられるが、保護者に対してはオープンキャンパスのみなので、情報量が不足と思われる。
- ・ 1-5 業界のニーズに向けて方向づけについて、主たる部分には対応しているが最新ニーズ対応には即応は難しい。

##### ② 今後の対応または改善

- ・ 1-4 今後は入学時のタイミングで、学校の方針等を含めた冊子を保護者宛に配布（郵送）していくことも検討していく。
- ・ 1-5 業界団体へのヒアリングを通し情報収集して対応を検討していく。

##### <学校関係者評価委員記入欄>

- ・ 生成 AI の登場が様々な業界に変化をもたらしています。学校としてもそれら業界関係者と密にコミュニケーションを図りアップデートしていくことが求められます。
- ・ なかなか保護者まで学校方針・理念等を周知させることは難しいと思いますが、今後の対応努力が少しでも結果として表れることを期待します。

## 2. 学校運営

項目	評価項目	評価※
2-1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2-2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
2-3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	4
2-4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
2-5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
2-6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
2-7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3
2-8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

## ① 課題

- ・2-7 年度当初の予定教育活動等に関する情報公開はされているが年度途中の情報公開は若干時間ロスが生じる。
- ・2-8 業務部門では業務部門社内システムが運用されている。教務部門でも別途システムの運用もあるが、システム運用の不慣れ解消に若干時間を要す。

## ② 今後の対応または改善

- ・2-7 保護者の方に本校教育を理解してもらうためにも改善していく。
- ・2-8 全教職員が情報システム利用の不慣れを解消し、迅速な情報の共有化等、作業の効率性を高める。
- ・2-8 学校側と学生の共有システムを導入し、運用している。

## &lt;学校関係者評価委員記入欄&gt;

- ・問題なく運営が行われている。
- ・学校運営の“見える化”のための学生とのシステムの共有化は素晴らしいと思います。

## 3.教育活動

項目	評価項目	評価※
3-1	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
3-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対する教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
3-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
3-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
3-5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
3-6	関係分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4
3-7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
3-8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
3-9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
3-10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
3-11	人材育成の目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
3-12	関連分野における業界との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントがおこなわれているか	3
3-13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みは行なわれているか	4
3-14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

① 課題

- ・ 3-2 学習時間の確保において、インターンシップでは、新型コロナウイルス感染防止対策の影響が若干残った。受け入れ見合わせの事業所や学生の健康面を考慮し実施に至らなかった。
- ・ 3-4 スポーツ分野など難易度が高い資格取得を目標とする学科では、学生の習熟度に格差が生じる。授業、カリキュラムの工夫を要する。
- ・ 3-5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携によるカリキュラムの作成・見直し等は、学科間の格差があるわけではない。今後、各団体と学内状況を併せて検討を要する。
- ・ 3-8 職業教育に対する外部関係者からの評価内容において学科間の格差がある。
- ・ 3-12 業界との連携において優れた教員の確保は、難しいのが現状である。

② 今後の対応または改善

- ・ 3-2 インターンシップは次年度以降積極的に実施していく予定。
- ・ 3-5 全ての学科での企業・関連施設など業界団体との連携を検討する。
- ・ 3-12 関連分野における業界との連携をさらに深めつつ、教員のスキルアップを業界団体の支援をいただき学校としてマネジメントできる体制作りをすすめる。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・ 色々な学科があるので、難しいかと思いますが、業界関係者との繋がりを強化していくことが重要です。
- ・ 企業関連施設との連携は、今年度はコロナという特殊な事情があったため仕方がないと思います。次年度以降の更なる充実を期待します。

## 4.学修成果

項目	評価項目	評価※
4-1	就職率の向上が図られているか	4
4-2	資格取得率の向上が図られているか	3
4-3	退学率の低減が図られているか	3
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
4-5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	3

※ 4 : 適切、 3 : ほぼ適切、 2 : やや不適切、 1 : 不適切

① 課題

- ・ 4-2 校外活動を含めた学校行事の変更により資格取得対策時間数の影響でスポーツ分野の資格取得実績がやや低下した。
- ・ 4-3 学習意欲低下によるドロップアウト人数が微増した。
- ・ 4-4 在校生の場合は状況の把握できている。卒業した生徒に関しては、各業界で顕著な活動をしている者以外、把握できてない。
- ・ 4-4 卒業生の社会的活躍及び評価は把握手段を模索する必要性あり。
- ・ 4-5 芸能系学科は制作現場と近い位置にあり、キャリア形成の必要性を常時認識できる環境にあり、授業へフィードバックされている。他学科はこれと比較した場合、同等とは言えない。

② 今後の対応または改善

- ・ 4-2 資格取得を目指す学科においては、目標を再確認し常に計画と行動をチェックし目標実現に行動する。
- ・ 4-3 ドロップアウトする原因には多種に渡るが意欲低下は普段の学校生活を通して察知できることが多い。教員は学生対応を第一に考え行動していく管理体制を構築していく。
- ・ 4-4 今後、就職先企業とも連携を図り、卒業生の追跡調査（評価）を実施できるシステムを構築していく。
- ・ 4-5 各学科の独立している卒業生に現況報告を依頼し、活躍の把握やキャリア形成について回答をいただき、学校の教育活動改善への一端として活用していく。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・ 対応、改善にある通り、ドロップアウトの原因は様々だと思うが、その生徒ひとり一人でも個別に対応していくしかないと思われる。
- ・ コロナ後という特殊な環境・状況が反映されている部分もあると思います。普段に戻った中でどこまで低下した状況を盛り返せるか！期待しています。

## 5. 学生支援

項目	評価項目	評価※
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
5-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
5-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5-5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
5-6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
5-7	保護者と適切に連携しているか	3
5-8	卒業生への支援体制はあるか	4
5-9	社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
5-10	高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切



①課題

- ・ 5-5 課外活動に対する支援は更に充実すべきである。
- ・ 5-7 保護者との適切な連携に関しては、年2回通知での連絡をしている。その他相談事の面談の時に学生の保護者と担任とやり取りする事があるが一部である。
- ・ 5-9 おおよそ全学科、社会のニーズを踏まえた教育環境が整っているが機器類に関しては、毎年最新を追い続けるのは難しい。
- ・ 5-10 高校との連携によるキャリア教育・職業教育については、一部の学科に留まっている。

②今後の対応または改善

- ・ 5-3 学生に対する経済支援体制では国による修学支援（給付型等）を最大限学生に案内支援している。
- ・ 5-5 課外活動の場を、企業・団体にもご協力いただき、多様な活動ができるように検討していきたい。
- ・ 5-7 保護者との適切な連携に関しては、今後、面談希望の保護者がいれば、導入の検討もしていく。
- ・ 5-9 今後の社会のニーズを分析し、全ての学科において、それを踏まえた教育環境の提供を随時更新していく。
- ・ 5-10 高校からの依頼で、高校の授業に専門授業を取入れ講師派遣や高校生に來校してもらい講座を実施している。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・ 全ての学科に同時に対応するのは難しいが、優先順位をつけてきちんと対応できている。
- ・ 教育環境の整備としてPCなど機器類を毎年最新を追い続けることは難しいが、年々飛躍的に高度化するソフト類(特に生成AI技術など)に関しては無視できるものではないので、対応していかなければならないと思います。

## 6.教育環境

項目	評価項目	評価※
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
6-2	学内外の実習施設、インターシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
6-3	防災に対する体制は整備されているか	3
6-4	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

① 課題

- ・ 6-2 インターンシップは全学科における今後の課題といえる。  
現在はインターンシップ体制を縮小している。  
海外研修については設置学科の状況から現時点で整備されていない。
- ・ 6-3 災害の発生を想定した避難訓練を実施しているが、定期的な実施の必要がある。
- ・ 6-4 安全管理体制整備されているが、細部の検討が必要。

② 今後の対応または改善

- ・ 6-2 コロナ感染縮小をみて次年度は通常に戻していく予定。
- ・ 6-3 地域防災訓練にも積極的に参加して、地域住民との連帯意識を持たせ、学生の防災、安全行動の認識を持たせる。
- ・ 6-4 安全管理体制の更なる浸透と、迅速に運用されるよう模擬訓練を実施していかなければならない。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・ 安全管理体制については、常に高い意識を持って取り組んでいく必要があります。最近栃木県が災害の体験を VR でできる車両を導入したので、話題性作りも兼ねて学校へ貸し出ししてもらい、生徒に体験してもらってはどうか？
- ・ コロナ後という特殊な環境状況が反映されている部分があると思います  
普段に戻った中でどこまで低下した状況を打開できるか、期待しています。

## 7.学生の募集と受入れ

項目	評価項目	評価※
7-1	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4
7-2	学生募集活動は、適正に行われているか	4
7-3	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
7-4	学納金は妥当なものになっているか	3
7-5	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

① 課題

- ・7-1 本校職員が高等学校進路担当教員に専門学校の情報提供を実施している。また、高等学校からの本校入学生に対して、申送り書など相互で情報の共有化をしている。また業者主催の各説明会に参加するも、希望するすべての生徒に情報を提供できていない。
- ・7-2 募集活動は適正に実施されているが、18歳人口の減少、大学進学増加、就職希望者など募集活動に工夫が必要と思われる。
- ・7-3 オープンキャンパスの際、本校の教育成果を報告している。また、本校職員が高等学校進路担当の教員に報告している。訪問に際し、報告頻度・報告内容等、当校担当者が資料作成と訪問日程調整に苦慮している。
- ・7-4 世界的な政治情勢や環境問題の不安から諸物価が高騰し教育環境にも影響が出てきている。

② 今後の対応または改善

- ・7-1 本校の各分野に興味を持っている生徒に対し、直接説明できる機会を企画する。
- ・7-2 高校への出前授業、校内進学説明会、会場進学説明会、バス見学会、オープンキャンパス等、募集活動は継続的に実施。また時代や社会ニーズに見合ったコース設置とカリキュラムを編成し、進路選択のニーズに繋げている。
- ・7-3 当校の最新実績、各高校卒業生の実績等、高等学校や生徒に最新を提示できるよう努めていく。
- ・7-4 物価高騰により教育質低下は避けなければならないので最小限の学納金変更を検討していく。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・教育の品質を維持するための価格改定はやむ負えないと思う。
- ・世界的な情勢からくる諸物価の高騰が学費等にも影響を及ぼすことになっています。できるだけ教育質の低下にならないようにするのはもちろん、値上げという手段だけではなく、学校側の経営努力にも期待します。

## 8.財務

項目	評価項目	評価※
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
8-3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
8-4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

① 課題

- ・ 8-1 財政基盤の安定性は学校運営にあたり最重要課題である。  
18歳人口減少により、定員の確保は厳しさを増しており、  
入学者を確保するための戦略を持ち、継続的な企業努力を  
推し進まなければならない。

② 今後の対応または改善

- ・ 8-1 財政基盤の安定のための入学者確保しなければならない。  
4年制大学への進学は今後も高まっていく中で大学と専門学校の  
違いをアピールして安定的に入学者数を確保したい。そのためにも  
質の高い実務能力と専門性を提供できる機関（学校）と認知される  
ような体系を目指していく。

< 学校関係者評価委員記入欄 >

- ・ きちんと分析され、問題なく運営できている。
- ・ 学生募集に対しても今後、少子化が大きな壁となって立ちは大かかって  
きます。大学との差別化等を図り、安定した入学者を確保できるよう  
期待しております。

## 9.法令等の遵守

項目	評価項目	評価※
9-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
9-2	個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	4
9-3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
9-4	自己評価結果を公開しているか	4

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

① 課題

- ・ 9-3 早期に自己評価と問題把握をするために、6月に実施した。  
問題点の改善には、分析と改善を実現化する計画的な取り組み  
が必要。

② 今後の対応または改善

- ・ 9-3 問題改善の取り組むためには、委員会等の設置が必要と考える。  
実現可能な具体的な取り組みを協議していく。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・対応、改善にあるとおり、委員会等の設置を検討していただきたい。
- ・今後の対応・改善に期待します。

## 10.社会貢献

項目	評価項目	評価※
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
10-2	学生ボランティア活動を奨励・支援しているか	4
10-3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等含む）の受諾等を積極的に実施しているか	3

※4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

### ① 課題

- ・10-1 コロナ前には、地域団体に学校施設を提供しての会合や講座を実施していた。また教育団体が学校施設を利用しての講座の開催があった。コロナ禍になり、感染予防対策に伴い、学校施設の貸し出しがストップとなった。  
当校主催の地域貢献活動を月1回のペースで実施していたが、コロナの影響により休止している。
- ・10-3 公開講座・教育訓練の受諾等であるが、現在の教員の授業形態では受託は厳しい（一部受託実施あり）

### ② 今後の対応または改善

- ・10-1 今後、コロナ感染も低下されていくので受け入れを推進していく。
- ・10-3 一部門での受け入れは見られる。当校の各分野で、公開講座・教育訓練の受諾ができるよう、教員の業務状況の調整を検討していく。

<学校関係者評価委員記入欄>

- ・コロナの影響で実施できなかつたり、控えたりしたものについて、令和6年は積極的に実施していただきたい。
- ・コロナ禍後という特殊な状況ですが、普段に戻った中でどこまで低下した状況を盛り返せるか期待しております。